



平成25年度 果樹情報 第6号

(平成25年6月6日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況（5月後半：果樹研究所）

5月4～6半旬の平均気温は、4半旬が17.4℃、5半旬が19.4℃で、6半旬が20.8℃で平年より各々1.0℃、2.2℃、3.0℃高い状況でした。この期間の降水量は15.5mmで平年の30%でした。

2 土壌の水分状況（6月2日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.9で乾燥状態、深さ40cmと60cmは、それぞれ2.3と2.5でやや乾燥状態となっています。

園地の状況を確認し、土壌が乾燥している場合は、かん水を実施し土壌水分を確保しましょう。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が32.8mmで平年比100%、側径が25.5mmで平年比98%とほぼ平年並、「ゆうぞら」は縦径が32.9mmで平年比97%、側径が23.0mmで平年比92%と小さい状況でした。

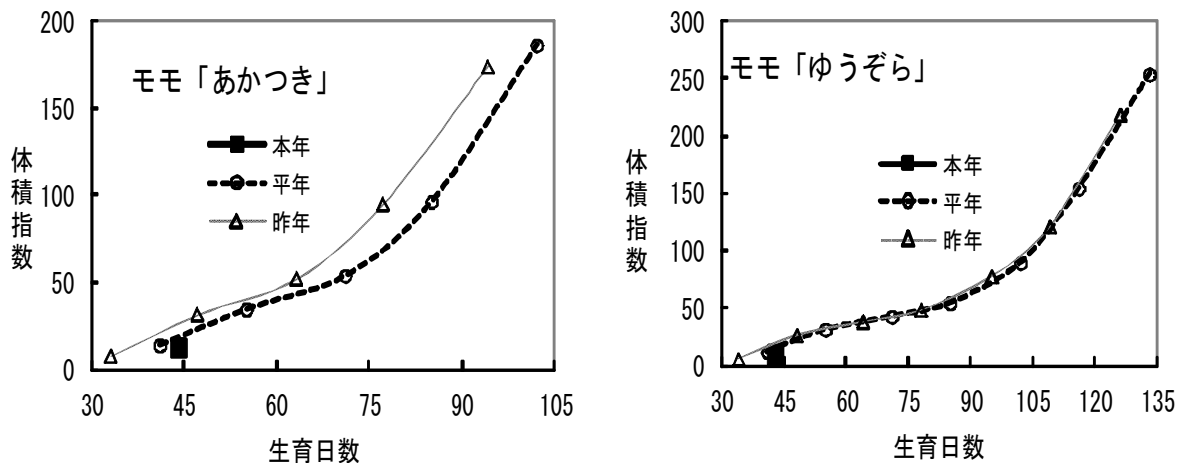


図1 ももの果実肥大

イ 新梢生長（満開後42日）

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が平年比114%と長く、展葉数は平年比104%と平年並みの状況でした。また、葉色は平年比105%となっています。

ウ 双胚果の発生（満開後30日）

「あかつき」の双胚果の発生率は5%（平年10%）と少ない状況でした。

エ 核障害の発生（満開後30日）

「あかつき」の核障害発生は、核頂部の亀裂が33%程度認められ、平年（41%）より少なく昨年（27%）より多い傾向となっています。

オ 発育予測

「あかつき」の硬核期開始予測日は6月11日で、平年より1日遅い予測となっています。同様に、収穫開始は平年より1日遅い予測となっています。

表1 ももの発育予測（6月1日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月11日	6月11日	平年並	8月3日	8月2日	1日遅い	8月7日	8月6日	1日遅い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が20.2mmで平年比98%、横径が23.5mmで平年比103%とほぼ平年並み、「豊水」は縦径が22.0mmで平年比97%、横径が23.4mmで平年比103%とほぼ平年並みの状況です。

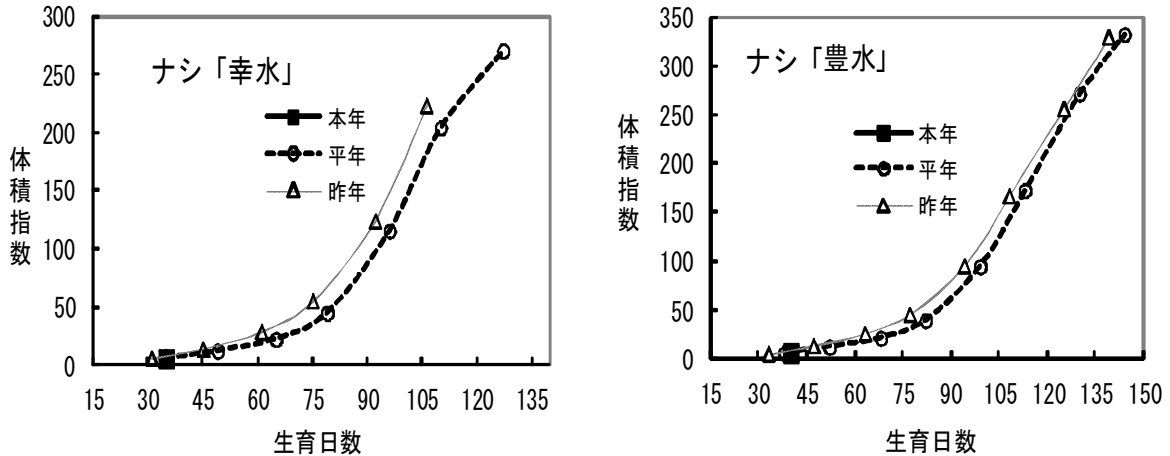


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長（満開後30日）

「幸水」の予備枝新梢長は29.9cmで平年比83%と短く、不定芽新梢長は38.2cmで平年比118%と長い状況です。予備枝中間部葉の葉色は34.1（SPAD値）で平年比87%となっています。

(3) りんご

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると「つがる」は縦径が26.7mmで平年比94%、横径が27.0mmで平年比94%と小さく、「ふじ」は縦径が24.7mmで平年比92%、横径が21.5mmで平年比88%で平年より小さい状況です。

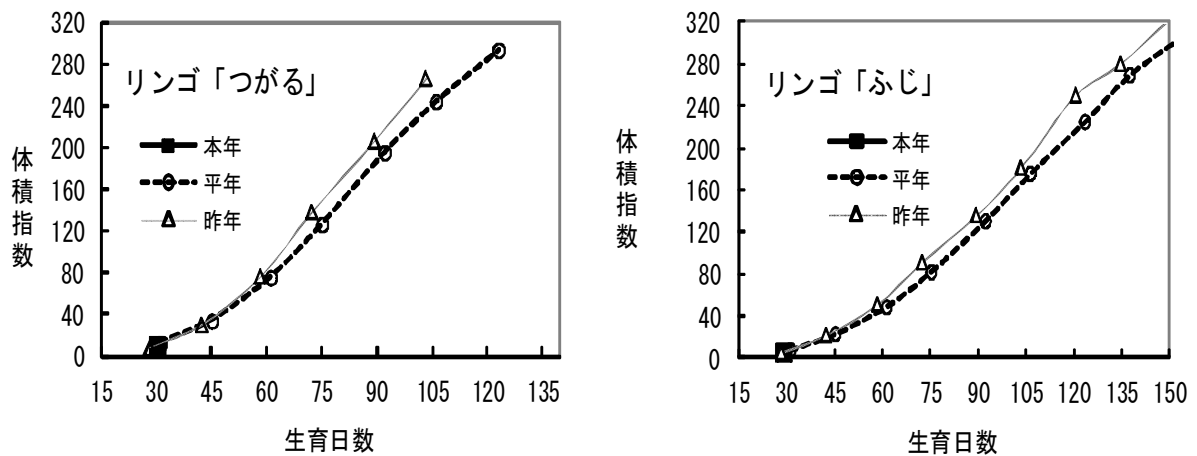


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長（満開後30日）

「ふじ」の新梢長は19.3cmで平年比105%、新梢停止率は77%となっています。

ウ 結実状況

「ふじ」の中心果結実率は、24%と平年より低い状況です。降霜の被害があり、樹によっては下枝の結実が少ない状況です。

表2 りんごの結実状況

	結実果そう率 (%)			中心果結実率 (%)		
	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
つがる	46.5	100.0	83.8	42.0	72.9	94.0
ふじ	75.6	99.1	66.0	24.4	59.3	73.0

注1：平年値は2005～2010年の平均（中心果結実率は1998～2010年の平均）

注2：供試樹は、「つがる」/M.26（6年生）、「ふじ」/マルバカイドウ（48年生）。

「つがる」はH24から調査樹を変更。

(4) ぶどう

ア 新梢生長（発芽後40日）

「巨峰」の新梢長は、64.8cmで平年比144%と長く、展葉数は9.9枚（平年8.8枚）と多い状況です。

イ 発育予測（6月2日現在）

「巨峰」の満開予測日は、今後の気温が平年並に推移した場合、6月11日で平年より1日遅い予測となっています。

表3 ぶどうの開花予測日（6月2日現在）

品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月9日	6月6日	6月8日	6月7日	6月9日

表4 ぶどうの満開予測日（6月2日現在）

品 種	満 開		今後の気温経過と満開予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月15日	6月10日	6月11日	6月10日	6月12日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

4 栽培上の留意点

(1) もも

果実や新梢生育が旺盛な時期なので、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促しましょう。

ア 仕上げ摘果

仕上げ摘果は、結実の状況を確認しながら硬核期開始までを目安に早急に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減しましょう。

双胚果や核障害の発生状況は、園地によって異なるので、仕上げ摘果前に各園地の状況を確認した上で摘果を実施しましょう。なお、双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果時に着果量をやや多めに残し、障害の発生の有無が外観から明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量に調整しましょう。

イ 樹勢回復対策

樹勢が弱い樹では早めの摘果を心がけ、着果数を制限し新梢生育を促しましょう。また、土壌が乾燥している場合は灌水を実施するとともに、樹冠下マルチを適宜実施し土壌水分を確保しましょう。

ウ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混み合いやすくなります。このため、樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部などが

ら発生し徒長した新梢は、早めに摘心や夏季せん定を実施しましょう。なお、樹勢の弱い樹では、夏季せん定は行わないか最小限としてください。

(2) なし

ア 仕上げ摘果

「幸水」「豊水」の仕上げ摘果は、予備摘果終了後、満開後50日頃までに最終着果量の20～30%増しとなるよう摘果しましょう。また、樹勢を考慮し着果数を加減しましょう。

イ 新梢管理

側枝基部（20～40cmの範囲）に発生した立ち枝新梢をせん除しましょう。ただし、主枝・亜主枝上から発生する新梢の数が少なく、冬季せん定時における更新枝の確保が困難な部位では、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し更新枝として利用しましょう。

新梢のせん除は、満開後45～60日に行うと花芽分化率を促進するが、満開後60日以降は樹勢低下や果実糖度の低下に結びつきやすいので注意しましょう。予備枝は、6月上旬までに伸長の良好な新梢を1本に整理しましょう。

徒長枝と果実の養分競合が起これば、果実へのカルシウムの転流や蓄積が阻害され、ミツ症、石ナシ、内部褐変などの生理障害の発生要因となります。このため、夏季せん定を実施し、受光条件を改善するとともに、果実へのカルシウムの転流・蓄積を促しましょう。

(3) りんご

ア 摘果

予備摘果は満開30日後まで実施しましょう。

仕上げ摘果は満開60日後まで実施しましょう。

仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」「王林」「さんさ」「緋のあづま」等の品種は4頂芽に1果を目安に実施しましょう。

果形や肥大状況等をよく確認し、小玉果や変形果、障害果、病虫害果、果台の長い果そのの果実、果そう葉の少ない果そのの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残しましょう。凍霜害等により結実の少ない園地では、着果数の確保を優先し、著しい不良果そのを対象に摘果は最小限に実施しましょう。

果形が不良な園地では、仕上げ摘果では基準より多めに果実を残し、修正摘果をこまめに実施して着果数を調整しましょう。

イ カルシウム剤の葉面散布

ビターピットの発生は、果実が大玉となりやすい場合（樹勢が強い園地、着果量が少ない園地など）や土壌の過乾燥や過湿により土壌からのカルシウムの吸収が阻害される場合に助長されるので、このような場合は、発生防止のためにカルシウム剤の葉面散布を実施しましょう。

(4) ぶどう

摘穂は、樹勢が落ち着いた樹はできるだけ早めに行いましょう。また、極端に強い新梢は、生育を抑制するため開花結実後の生育を見ながら行いましょう。

花穂整形は、花が1～2輪咲き始めた頃が適期になります。栽培面積が多い場合などは、開花前5日頃から始め、遅くとも満開期までには終了しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、輪紋病、腐らん病

褐斑病は、6月上旬が子のう胞子の飛散盛期となり、重要防除時期にあたります。本病の発生が多い園地では、6月上旬の防除を徹底しましょう。

輪紋病は、梅雨期となり気温も上昇する6月に感染しやすくなります。6月中旬の防除を徹底しましょう。

腐らん病は、発生が増加傾向にあるため、防除を徹底しましょう。枝腐らんは健全部を5cm以上含めて切り取ってください。胴腐らんは周囲の健全部まで5cm広く削り取り、塗布剤を塗布しましょう。伐採した被害枝幹および削りとった病患部は適切に処分してください。

イ ももせん孔細菌病

春型枝病斑の発生量は中通り北部で「多い」状況（病虫害防除所調査）であり、特に注意が必要となっています。第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉および果実を取り除くとともに、発生が見られる園地では6月10日頃の防除を徹底しましょう。ただし、早生種では散布薬剤の収穫前日数に注意しましょう。果実被害が多い園地では、仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行いましょう。なお、病虫害防除所から発表された病虫害防除情報（5月31日付け）を参照し、防除の徹底を図ってください。

ウ もも灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やモモの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

エ なし黒星病

県内の発生量は浜通りで「やや多い」状況（病虫害防除所調査）であることから、地域により今後の発生に注意が必要です。罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を徹底するとともに、6月中は黒星病防除剤の散布間隔が10日以上あかないように防除を実施しましょう。また、散布むらのないよう十分量散布してください。なお、病虫害防除所から発表された病虫害発生予察情報注意報第2号（なし黒星病、5月31日付け）を参照し、防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ第1世代の防除適期は6月2半旬頃と推測されます。フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期にあたるので、この時期に防除しましょう。

イ モモハモグリガ

第2世代の防除適期は6月3半旬頃になると推測されます。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、これらの発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第2世代の防除適期は6月6半旬～7月3半旬頃になると推測されます。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシで果実被害が多い地域では、近隣のモモ等における防除も徹底しましょう。

エ カメムシ類

山間および山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛来状況を確認し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

オ モモノゴマダラノメイガ

本種の発生が多い地域では、本種に効果のある薬剤で防除を徹底しましょう。

表5 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成25年6月3日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	6月5日	6月10日	6月18日	6月27日
平年並み	6月7日	6月13日	6月24日	7月4日
2℃低い	6月11日	6月17日	7月2日	7月13日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：4月28日、ナシヒメシンクイ：4月30日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

